

平成22年度採択  
プレ戦略イニシアティブ  
(研究拠点提案型)



筑波大学  
研究戦略イニシアティブ推進機構  
Organization for the Support and Development  
of Strategic Initiatives

拠点名称： 未来の子ども育ち研究支援センターの創設

(Establishment of Research and Support Center of Child Growth for Tomorrow, CCGT)

拠点代表者：人間総合科学研究科・教授・阿江通良

研究拠点形成計画の概要

子どもの運動能力、社会性、学力、言語力などの低下や、虐待の増加などから「子どもの育ちの危機」が叫ばれており、子どもや子どもを取り巻く環境（生育環境）を総合的に調査研究し、子どもの健全な育ちを支援するとともに、未来社会で必要となる基本的な力＝キー・コンピテンシーを明らかにする総合的研究プロジェクトが求められている。そこで、人間総合科学研究科の教育学、心理学、障害科学、体育科学、芸術学が専攻を超えて連携して研究を行う。さらに将来的には医学や人文など他の専攻、他大学、他研究機関も含め、子どもの育ちを総合的に研究し支援することができる拠点を創設する。

そのため、1. 基盤プロジェクト、2. 総合コア・プロジェクト(子どもの育ち総合調査研究、包括型育ち支援プログラム開発プロジェクト)を展開する。

研究拠点形成に係る研究の概要

1. 基盤プロジェクト

総合コア・プロジェクトの基盤を形成するため、①身体活動、②情緒・人間関係・社会性・モラル、③数学的・科学的思考力、④言語力、⑤生活環境・コミュニティに関する5つのプロジェクトを推進する。

2. 総合コア・プロジェクト

(a) 子どもの育ち総合調査研究：乳幼児期から青年期にかけての子どもの①身体活動、②情緒・人間関係・社会性・モラル、③数学的・科学的思考力、④言語力、⑤生活環境・コミュニティについて、それぞれの発達の実態に関する調査研究を行い、子どもの育ちの問題点と課題を分析する。また、これら5要因間の関係を明らかにし、子どもの育ち状態を総合的に把握する手法（例：子ども育ちプロフィール）を開発する。そして、得られた知見を総合的に検討し、未来社会で要求されるキー・コンピテンシー（子どもが身につけるべき基本的な力）とは何かを明らかにする。

(b) 包括型育ち支援プログラム開発：1. および2. (a) の研究成果にもとづき、これらを含むワークショップ型保育・授業を中心にした包括型の育ち支援プログラムを開発する。

これらの研究拠点構想によって、わが国の研究拠点として「未来の子ども育ち研究支援センター」の創設を目指す。また、本学にアジアの子どもに関する研究拠点として「近代化による子どもの育ちの危機支援研究拠点」を構築し、アジアからの留学生を受け入れ、指導者を養成するとともに、アジアにおける子ども研究を推進する。

これらを通してわが国や世界における子どもの育ちに関する研究拠点を形成し、これからの新たな子ども像、子どもを取り巻く社会の側の新たな公共性の創出を目指す。

